

「置賜の森林からのメッセージ運動」の取組み

～森の達人派遣します～

山形県置賜総合支庁森林整備課 倉本幸輝

【はじめに】置賜地方は山形県の最も南部で最上川の源流地域に位置し、米沢市外2市5町からなり、森林面積は19万1千ha、森林率は77%となっています。特徴としては水源かん養保安林が2万haを超え県内の保安林の75%にのぼり県民にとって重要な森林となっています。また、県内の松林の51%が存在し、松くい等の被害が深刻になっているため、地域の森林に関する意識も高まり、最上川上流域の森林の整備、地域の松を守る等、置賜管内で10の森林・林業に関するボランティア団体、700人が活動している。このような地域の森林を守っていくためにもこれまでに普及指導事業で森林環境教育について取り組んできました。しかし、次のような問題が出てきました。

- ・限られた学校・団体でしか利用されておらず、参加者が少ない。
- ・これまで林業改良指導員が講師を務めることが多く、林業士・森林インストラクター等を活用する場が少ない。
- ・単発的な活動がほとんどでなかなか効率的に普及を図っているとはいえません。一方、小学校では総合学習の時間が増えています。そのなかで、森林環境教育に取り組む学校もみられるが、なかなか広がっていません。その原因としては
- ・森林学習をやりたいが、進め方、プログラム等がわからない。
- ・森林・林業の専門家との接点がなく、講師を決めかねる。
- ・森林教室をするための教育資材がなくて気軽にはできない。ということが考えられます。このような問題をなくすには、行政が教育機関・および地域と森林・林業関係者とのコーディネート役となり、普及指導事業と一体となって森林体験活動を支援することが重要だと考え、置賜総合支庁では、独自に「置賜の森林からのメッセージ運動」を立ち上げ、普及サイドと連携して取り組んだので紹介します。

【目的・事業内容】この運動は小・中・高等学校の児童生徒および地域の親子に社会教育・学校教育のなかで、森林環境教育を通して森林・林業への理解を深めることと、森づくりの推進を目的としています。

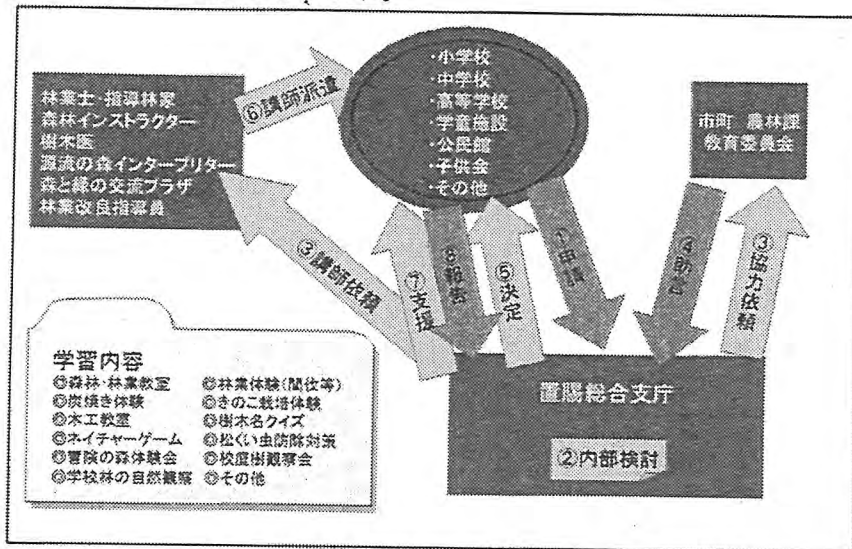
事業内容としては、林業士・森林インストラクター・林業改良指導員等を派遣し(写真1)、森林体験森林教室を実施しています。また、森林・林業教育を実施するための教育資材を提供し、活動を支援しています。



写真. 1 講師の派遣による森林教室

次にこの運動の流れは、図. 1 のようになっています。

まず、学校・子ども会、公民館等の団体から、申請があり、それを置賜総合支庁で検討し、講師を決め依頼し、市町村、農林課等に協力を要請、市町村から助言をいただき、決定通知を出します。講師を派遣し、資材の提供等支援をし、事業



が実施されると、報告

図. 1 置賜の森林からのメッセージ運動の流れ

書を頂くようにしています。それでは実際の事例を紹介します。

【事例1キノコ植菌体験】南原公民館から、きのこの植菌を小中学生とその親30名を対象に実施したいと申請を受けました。そこで、きのこ専門の林業改良指導員を派遣し、種駒、ほだ木等を提供することに決定しました。



写真. 2 きのこと植菌体験会状況

講師の説明の後(写真2)、子供達は親から手伝ってもらいながら菌打ちを行いました。参加者からはきのこを通して自然に対する

興味が深まったと報告を頂きました。この公民館は常連になり、今年度4回も利用していただき子供達の顔もわかるようになりました。

【事例2森林学習会】ボランティア団体「羽黒の森を守る会」から、松くい虫被害の予防と森林教室を住民と小学生35名に学習してもらいたいと申請を受けました。そこで、松くい虫の専門的林業改良指導員を派遣し、樹幹注入剤を提供することに決定しました。



写真. 3 樹幹注入体験状況

現地では、樹幹注入を体験し(写真3)、地域の松を守る意識を高めたあと、ネイチャーゲームも利用して森林の生態等についての理解が深まりました。「身近な里山を利用し楽しみながら森林について学習できた」と喜ばれました。

【事例3学校林整備】南陽市吉野緑の少年団から学校林で林業体験及びハンモックつく

りを小学生 28 名に体験させたいと申請を受けました。そこで講師として地元の林業士、森林インストラクター等の派遣、資材としてヘルメット、枝打ち鋸等を提供しました。林業士の指導で、子供たちは真剣に取り組んでいました(写真 4)。また、森林インストラクターの指導でハンモックづくりも体験し、山の楽しみ方も学びました。



写真. 4 林業士の説明を聞く子供達

【事例 4 林業体験会】置賜農業高校から、林業体験を生徒にさせたいと申請を受けました。講師は林業士および林業改良指導員で手鎌、唐鋏等を提供しています。

林業体験では、高校生がなかなか言うことを聞かずにたいへんでした。ところが、午後の木工クラフトのではなぜか楽しそうに体験しており(写真 5)、対象に合わせたプログラムの作成や、指導者の技術向上等の課題があると思われました。さて、ほんの一部の事例

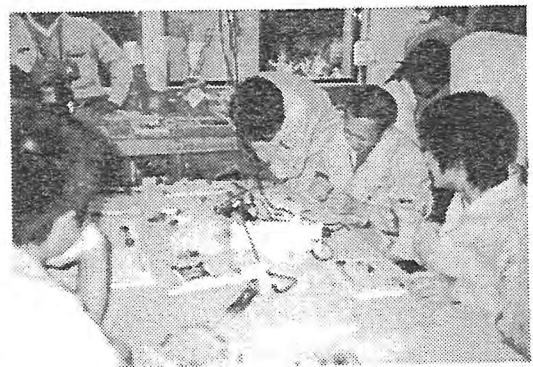


写真. 5 木工クラフト体験

を紹介しましたが、今年度の実績は次のようになりました。

【実績】

森林学習会、きのこ栽培、林業体験、木工体験など多種のプログラムを展開し、1月現在で、平成 15 年度の普及指導事業の 10 件、337 人に比べ、4.8 倍の 37 件、1637 人の方に利用していただくことが出来ました(表. 1)。活動を支援することで、運動に対して関心が高まったと思われま

表. 1 平成 16 年度実績

	体験内容	件数(件)	参加人数(人)
1	森林学習会	17	806
2	キノコ栽培体験	11	383
3	林業体験	5	238
4	木工体験	4	210
合計		37	1,637

次に派遣講師別にみると(表. 2)、

延べ人数は平成 15 年度 17 人に対し、3.4 倍の 58 人となり、地域の人材をより多く活用することができました。

表. 2 平成 15 年度 10 件 337 人
派遣講師別実績

	講師区分	件数(件)	延べ人数(人)
1	林業改良指導員	16	33
2	森林インストラクター	8	8
3	林業士、森林組合職員	5	14
4	資材提供のみ	5	—
5	その他	3	3
合計		37	58

申込み団体別にみると次のようになります(表. 3)。小・中・高校から地区公民館、市町村、ボランティア団体まで、利

平成 15 年度 17 人

用団体は地域全体にひろがりました。

また、「吉野緑の少年団」は4件、「南原公民館」も4件、ボランティア団体「森の仲間たち」

が3件利用するなど、リピーターが生まれ、気軽に森林体験が可能となったといえます。このように置賜の森林からのメッセージ運動はとても好評を得ています。地元の新聞やテレビ等のマスコミにも取り上げられ、置賜から情報を発信することができました。子どもから感想文をもらっているので紹介させていただきます。

表. 3 申込み団体別実績

	団体区分	件数 (件)	利用人数 (人)
1	小・中・高等学校	18	778
2	地区公民館	10	337
3	市町村	5	455
4	ボランティア団体	4	67
合計		37	1,637

吉野緑の少年団 4件

南原公民館 4件

森の仲間たち 3件

森林病害虫について学習して「森林を人間だけでなく、虫も荒らしていることに驚きました。人間は森林を壊す立場ではなく、虫などから森林を守り育てる立場ではないかと思いました。私達が森林のために何が出来るのかもっと考えてみたいと思いました。」このように子供達の意識も変化してきています。

【評価および課題】 今回の取組みを通して

- ・森林体験の参加者人数が昨年度の4.8倍と増加し、森林・林業に対する関心を高めることが出来ました。
- ・林業士・森林インストラクター等地域の指導者を昨年度の3.4倍もの活用により、地域へ貢献することができた。
- ・リピーターが生まれるなど気軽に活動ができるようになった。
- ・地域、行政を含めた林業関係が連携することで効率的な活動が可能になった。
- ・森林づくり運動が地域へと広がった。
- ・子供たちも森林学習を通して何かできることはないかと考えるようになった。

一方で、もっと早く知っていればよかったという声も聞かれるので、さらに定着させるようPRしていくことが大切です。

また、研修等を充実させ、対象者にあったプログラムを提供する等我々、指導者の技術の向上もかせませません。

今後も、「置賜の森林からのメッセージ運動」を通して次代を担う子供達の「生きる力」を育てていくとともに、地域の森林を支える人づくりに期待して運動を展開していきたいと考えています。